

稲作だより

第2号 ばか苗病対策編
令和8年3月11日

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動最上地域本部 最上総合支庁農業技術普及課 ☎0233-29-1333

昨年、「ばか苗病」が多く見られた場合は、例年以上の対策が必要になります。特に、育苗器具の消毒を徹底して、育苗を始めましょう。

◎対策① 育苗器具の消毒

育苗箱、浸種水槽、催芽器（循環部含む）、育苗器、パレット等の育苗資材を、使用前に消毒用薬剤（イチバン等）を用いて消毒しましょう。特に昨年発生した場合は必須です。



◎対策② 粉じん対策

昨年、ばか苗病が発病した苗を移植した場合、収穫した粃が保菌している可能性が高く、その粃を乾燥調製した施設では、乾燥作業で出た粉じんに菌がいる可能性があります。育苗資材消毒、種子消毒後に再感染する可能性があるため、その後の粉じん対策が重要です。以下の点に注意して対策しましょう。

1. 種子準備、種子消毒を行う場所をきれいに掃除しましょう（よく水で洗い流しましょう）。
2. 消毒後の粃袋は、消毒前と別の場所に置き、粉じんがかからないようにしましょう。
3. 浸種おけにフタをする等、粉じんが混入しない対策をとりましょう。
4. 粃がら、稲わらも同様に菌がいる可能性があるため、育苗作業場所からは遠ざけましょう。

◎対策③ 種子消毒

1. 薬液や温湯につける時は、袋をよくゆすり内部まで液を浸透させましょう。
2. 処理時の薬液や温湯の温度に注意しましょう（テクリド C707の適温は水温 10～15℃）
3. 温湯消毒には持続性がなく、処理後の再感染の危険性が高いため、温湯消毒＋微生物農薬の2重消毒が効果的です。

◎対策④ 温度管理



「ばか苗病菌」は 15℃以上で増殖を始め、約 26℃が増殖の適温とされています。温度管理は例年以上に気を配り、温度計を確認して作業しましょう。

1. 浸種の水温は 10～15℃にしましょう。特にばか苗病菌が増殖しやすい 15℃以上とならないように、直射日光が当たらない屋内での浸種を行いましょ。
2. 催芽機、出芽育苗機の温度は 30～32℃にしましょう。温度が低いと菌の発生を助長させます（催芽温度 26℃では 30℃よりも発病が多くなる）。
無加温出芽の場合、天候が悪く温度が上がらない時は保温対策を行いましょ。
3. 育苗箱を並べてからも菌の増殖の適温にならないよう、出芽・緑化が終わったら直ちに被覆資材を除去しましょ。

裏面（2枚目）は、ばか苗病対策の注意点をまとめたチェックリストです。育苗前によく確認し、育苗後に記載して普及課、JAに提出してください。

R8 水稲育苗作業チェックリスト&アンケート

市町村名 _____

地区名 _____

氏名 _____

作業工程	項目	確認内容	チェック	
			はい	いいえ
作業準備	1 前年状況	前年「ばか苗病」の発生は少発、多発問わずありませんでした。 ※前年発生があった場合 発生量 発生箱数 _____ 箱 / 発生頻度 箱当り _____ 本	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2 周辺環境	「ばか苗病」が発生した圃場の稲わら・籾殻等は伝染源になります。種子を取り扱う作業場所やその周辺に持ち込んだり放置したりしていません。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3 清掃	前年に「ばか苗病」が発生した圃場の籾を乾燥調製した場合など、籾やぬかの粉じんが伝染源になります。作業場所をきれいに掃除し、稲わら、籾、粉じん等が残らないようにしました。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	4 消毒	育苗箱、浸種おけ(水槽)、催芽器(循環部含む)、育苗器、パレット等の育苗資材を、使用前に消毒用薬剤(イソパン等)を用いて消毒しました。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	5 塩水選	塩水選を実施しました。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	6 袋詰め	目の粗い袋を用い、種もみを4~5kgずつ袋にゆとりをもたせて詰めました。(種子消毒や浸種時に温度のムラを出さないため。) ※いいえの場合実数量を記入 _____ kg ずつ袋詰めした	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
種子消毒	7 希釈倍率・浸漬時間	消毒薬剤の使用に当たっては、ラベルに記載された希釈倍率や浸漬時間を遵守しました。 希釈した薬液は乾燥籾重の約2倍(以上)の容量を準備しました。(薬液の使用回数は一回) 例) ○ テクリードCフロアブル(200倍 24時間浸漬の場合) 種もみ(乾籾)10kgに対し 水19.9ℓ、薬剤100ml、希釈液合計 20.0ℓ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	8 消毒時水温	10℃以上の水温を確保しました。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	9 留意点	希釈した薬液に浸漬した際、種子の入った袋をゆすって気泡を除き、薬液が内部まで十分にゆきわたるようにしました。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(温湯の場合)	お湯に浸漬直後、水面上に種子を5回ほど上げ下げし、種子が入った袋の中心部まで温度が上昇するようにしました。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(温湯の場合)	温湯消毒後、ただちに冷却しそのまま浸種を行いました。 ※ただちに浸種を開始できなかったため、再感染抑制のため冷却後脱水し通風乾燥で籾水分を15%まで低下させました。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 消毒前後	再汚染を防ぐため、消毒前の種子と消毒後の種子は、同じ場所に置いていません。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
浸種	11 浸種場所	浸種場所は、直射日光が当たらず極端に温度上昇しない場所で浸種水槽にはフタをしました。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	12 浸種水温	適正水温は10~15℃。温度計を設置し、常に水温に気をつけました。 (15℃以上では、「ばか苗病」の発生リスクが高まるため。)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	13 水交換	薬剤効果安定のため、浸種開始後3日間は水交換をしていません。 浸種する水は、水道水等きれいな水を使用し、水交換は2~3日に1度程度の間隔で静かに行いました。また、流水中に浸種していません。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	14 浸種期間	積算水温で120℃までとし、長くしていません。(積算水温に達しなくても2週間程度までとしました。)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
催芽	15 催芽温度	催芽温度は30~32℃としました。催芽器を使用した場合も、温度計で水温を確認しました。 (半端な温度(26℃等)での長時間の催芽は、「ばか苗病」菌の増殖を助長するため)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	16 催芽時間	催芽時間(催芽機のスイッチを入れてからの時間) 品種 _____ 約 _____ 時間 品種 _____ 約 _____ 時間	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
育苗	17 育苗環境	育苗施設内や周辺に稲わら、籾殻等を持ち込んだり放置したりしていません。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	18 育苗培土	籾がらくん炭を床土、覆土に使用していません。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	19 育苗温度	地温計、寒暖計を設置し、苗の成長点付近の温度(最高、最低温度を含む)と、育苗ハウス等の温度を確認しました。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	20 温度管理	出芽時(30~32℃)、緑化期(昼:20~25℃、夜:10℃以上)、硬化期(昼:15~20℃、夜5℃以上)を目安とし、特に被覆資材を除去するまでは、感染に好適な条件(最適増殖温度26℃)となるため、適正な管理を徹底しました。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	21 病害の発生	育苗箱内にばか苗を見つけた際、直ちに抜き取り適切に処分をしました(ハウス内等に放置しない)。また、多発した育苗箱は、移植に用いていません。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

チェック☑ (複数可)

種子消毒	<input type="checkbox"/> 薬剤消毒 使用農薬 _____	育苗様式	<input type="checkbox"/> ハウス <input type="checkbox"/> プール
	<input type="checkbox"/> 温湯消毒 _____℃ 分 _____月 日 (☐JA等へ依頼)		<input type="checkbox"/> トンネル
	<input type="checkbox"/> 生物農薬(77プロック、Iホブ'DJ) 使用農薬 _____		<input type="checkbox"/> 露地

種子消毒~移植までの作業日時の記入をお願い致します。 品種名(複数可) _____

種子消毒: _____月 _____日 浸種期間: _____月 _____日 ~ _____月 _____日 催芽日: _____月 _____日

播種日: _____月 _____日 加温期間(加温の場合): _____月 _____日 ~ _____月 _____日

マルチ被覆期間: _____月 _____日 ~ _____月 _____日 移植日: _____月 _____日

●ばか苗発生状況 発生あり(下に詳細) 発生なし

品種 _____ / 播種箱数 _____ 箱 / 発生箱数 _____ 箱 / 発生頻度 箱当り _____ 本

品種 _____ / 播種箱数 _____ 箱 / 発生箱数 _____ 箱 / 発生頻度 箱当り _____ 本

品種 _____ / 播種箱数 _____ 箱 / 発生箱数 _____ 箱 / 発生頻度 箱当り _____ 本

品種 _____ / 播種箱数 _____ 箱 / 発生箱数 _____ 箱 / 発生頻度 箱当り _____ 本